

令和元年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和元年6月25日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 半場 江利子, 松本 重雄, 位高 光司,
能見 伸八郎, 山本 みどり, 白須 正
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長, 長谷川担当部長, 濱口経営企画課長,
北川京北病院事務長

1 開会

2 議事・報告等

(1) 平成30年度財務諸表等（案）について

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

- 機構全体で黒字化を目指していると思うが、京北病院では何が原因で収益が悪いのか。
→ 高齢患者の絶対数は変わらないが、慢性的な疾患が多く、老健施設の稼働率が高い。一般病床利用率の稼働を上げるために、エリア拡大や比較的若い層を取り込んでいく。
- 市立病院の運営費負担金が減少している原因は。
→ 運営費負担金については、政策医療費、投資経費の元金返済の減額が原因で減額した。
- 前年度と比較すると、給与費と材料費が増加している原因は。今後の取組は。
→ 材料費については、手術件数増加による診療材料費の増加、外来患者の高額薬剤の増加により影響している。給与費については、医師数の増加、給与改定対応で増加した。今後については、現在取組を進めている外来適正化の取組を推進し、比較的症状の安定した患者さんをかかりつけ医の先生へ返していくよう逆紹介を推進する。

(2) 平成30年度 実績報告書（案）について

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

- 救急医療がBとなった理由は。
→ 救急搬送受入患者数は年々減少しているが、高齢化に伴い患者背景も複雑ではある。
→ 実績報告書記載の実績と目標との乖離、市内の救急搬送状況、当院の応需率等を考慮してB評価とした。

(3) 監査報告書

資料3に基づき長谷川監事から30年度事業及び会計について適切に行われていたことを報告。

(4) 第2期中期目標期間事業報告書（案）について

資料4に基づき、折戸次長から説明
議案のとおり承認された。

- 27年度の決算が悪化した原因は。
→ 電子カルテの更新や退職給付引当金等が原因で収益が悪くなった。

(5) 収益状況月次報告（5月分）

資料5に基づき、折戸次長から説明

- 適切な入院期間で運用できたことから、診療報酬単価は上がったが、大型連休のため、在院患者数が減少したことから、5月の延患者数は減少し、稼動に影響した。

(6) 訴訟案件について

資料6に基づき、長谷川部長から報告。

3 閉会